2016年度

Ⅰ　世界史問題

注　意

1．試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2．解答用紙はすべて**ＨＢの黒鉛筆またはＨＢの黒のシャープペンシル**で記入することになっています。ＨＢの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3．この問題冊子は**12ページ**までとなっています。試験開始後，ただちにページ数を確認してください。なお，問題番号はⅠ・Ⅱとなっています。
4．解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので，出席票の受験番号が，あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し，出席票の氏名欄に**氏名**のみを記入してください。なお，出席票は切り離さないでください。
5．解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し，その他の部分には何も書いてはいけません。
6．解答用紙を折り曲げたり，破ったり，傷つけたりしないように注意してください。
7．この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは，鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1．マークは，下記の記入例のようにＨＢの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2．１つのマーク欄には１つしかマークしてはいけません。
3．訂正する場合は消しゴムでよく消し，消しくずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

（３と解答する場合）

Ⅰ．次の文を読み，下線部1)～23)にそれぞれ対応する下記の設問1～23に答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

地中海沿岸各地に生まれた都市国家のおのおのは，自らの守護神ばかりでなく，そのほかの神格や英雄[1)]たちを祀るため，それぞれに神殿や祭壇，聖域を設けていた。ひとびとは，神格が，戦争や天災など[2)]危機をもたらしたと信じる場合には償いやなだめの気持ちから，あるいは，それらの克服に力を貸したと信じる場合には感謝や畏れの念から，いずれの場合も聖域で定期的に祭礼を催した。また，事あるごとに神意を伺い[3)]，犠牲を捧げ，神的力との関わりの中で辛うじて生かされていると感じられる自らの将来の安寧を願った。

そもそも，各地に集住や植民を通じて作られていった都市[4)]というひとびとの容れ物そのものが，広い意味での聖域であった。ローマ[5)]をはじめとしていくつかの都市の創建神話や伝説は，占いや神意に諮りながら念入りに場所を選び，真剣な儀式と儀礼をもって都市空間を聖別したことを伝えている。創建後も，市民たちは都市の永続と繁栄を願って，創建にまつわる伝説上の出来事や創建者を記念し[6)]，都市創建という聖なる出来事を，祭儀の形で毎年再演することで，都市空間の安全と，そこでの活力の再生を図った。

都市空間のそうした神聖性は，市壁内の神殿や神域，公共建築物のみならず，聖域に通じる道，四辻，街区の境界，家の中の守り神を祀る祭壇など随所に結晶化していた。時代が下り，「ローマの平和」の時代[7)]になって東方からの宗教[8)]が盛んに流入するようになると，市壁内では民家，郊外では墓地[9)]もまた，信者の礼拝のための聖域空間に転用された。後代の例からして，初期のユダヤ[10)]教やキリスト教の礼拝施設には，しばしば聖書[11)]の場面が壁画[12)]に描かれていたに違いなく，これは，ちょうど，ギリシア・ローマの伝統宗教における儀礼行為が民衆にとって宗教教育の役割を果たしたのと同じく，信仰の教義を視覚的に信者に伝える役割を果たした。

聖域は都市の城壁内ばかりでなく，城壁外の農村領域の辺境にも設けられた。神々は，世界のいたるところに遍在しており，戦争[13)]など，共同体や人々の人生の転機において神々のもとまで出向いて，その怒りや気まぐれな力の暴発をなだめ，あるいは神意を伺うことは，古代人にとって生き延びていく上で重要なことであった。唯一神と，その神の救済という計画的な教義体系を持つキリスト教の時代になっても，超自然的な神や聖人の力は，荒々しい自然との関係で意識され，荒涼たる砂漠や険しい山間を選んで修道院[14)]や教会が建てられていった。

古代地中海世界の，このように多様で多彩な信仰や聖域のあり方は，この世界を取り巻く自然環境のあり方と密接に関連していた。この世界は起伏に富んだ地形や地勢を持つば

かりか変わりやすい気候にもさらされており，とりわけ古代には，そうした事情に応じて，社会や生産の組織[15]のみならず，信仰のあり方も断片化・多様化しやすかった。おのおのの共同体が，ローマ帝国[16]の時代に至ってもそれぞれの創始・来歴にまつわる伝説・神話を大切にし，互いに神殿や聖域の伝統や壮麗さを競い合っていたゆえんである。その一方，諸共同体は，相互のコミュニケーションや知識・物資の交換関係を持たずに孤立したままでは，この厳しい自然条件にさらされた世界を生き抜いていくことはできなかった。ギリシア人はオリンポス十二神を軸とした神話を，ヒッタイト[17]やその他の東方民族の影響を受けて織り上げて行ったが，そうしたギリシア民族の共通の神話的基盤は，彼らのアイデンティティーを形成させたばかりでなく，さまざまな民族の多神教と習合して，ともすれば敵愾心や猜疑心から互いに争いあうばかりになりがちな諸共同体を，共通の信仰的基盤の上に統合する働きをした。地中海を通じたコミュニケーションが１つの世界を生み出したゆえんである。やがてキリスト教が共通の精神的・文化的コミュニケーションの宗教的土台に選ばれ[18]，たちまち，この世界の多くのひとびとの信仰を集めたが，その一方でアイデンティティーの断片化・多様化を促すこの世界特有の心的傾向，ないし思潮は，活発で深刻な教義論争[19]を生み出すことにもなった。

最後に，この世界のあり方を古代中華世界のあり方と対比してみよう。中華世界は，黄河本支流やそのほかの大河支流の水源に近い渭水盆地[20]や洛陽盆地に展開したが，それは，そこが，様々な気候や地形等，栽培条件に適応した五穀の集散に適した地域であったからである。古代地中海世界におけるような分権的な交換型のネットワークに拠るというよりは，河川輸送やのちには運河輸送によって集めた資源を分配するという，中央集権的再分配型のネットワークのシステムを志向していたといえる。そうした世界では，権力者たちは，祖先崇拝や自然崇拝の礼式や祭儀を独占し，治水事業[21]に努めた。また殷の王朝では，文字[22]の記された青銅製の祭器を分配するなど，自らの宗教的権威や文化的優位性を積極的に統治に利用しようとし，その統治はいわゆる神権政治的性格を持った。前漢の時代には，郊祀や封禅といった皇帝祭祀が整えられると同時に官学となった儒学[23]の影響により祖先崇拝が重視され，廟制も整えられていった。世界宗教である仏教到来後も，伝統的な祖先崇拝や儒学との間の確執は，さほど生じなかった。

１．ギリシアの英雄ヘラクレスはその怪力で地中海と外洋を結ぶ海峡を作ったと伝説に言われている。「ヘラクレスの柱」と呼ばれた岬に挟まれたこの海峡の名を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．ジブラルタル　　ｂ．スエズ　　ｃ．ダーダネルス　　ｄ．ボスフォラス

2．地中海世界に大規模な疫病が最初に襲ったのは160年代のことであった。天然痘ともはしかともいわれるこの疫病は時の皇帝ルキウス＝ウェルスの命も奪ったと伝えられるが，この疫病について記述した同時代を代表する医学者の名を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．アルキメデス　ｂ．ガレノス　ｃ．デモクリトス　ｄ．ピタゴラス

3．ギリシアの諸都市は重要な決定を行う際，神意に伺いをたてることを常としたが，ひとびとからの問いに対する神からの答えを何と呼ぶか。その名をしるせ。

4．フェニキア人の植民市で紀元前３世紀ごろまで西地中海の交易を支配していた北アフリカの都市国家の名をしるせ。

5．ローマの共和政時代，元老院議員階層に次ぐ身分の騎士階層の者たちは，属州で過酷な取り立てを行うことで富裕化した。彼らは，高利貸以外にどのような立場でそのような取り立てを行ったかをしるせ。

6．アウグストゥス帝の時代にローマの創建神話にまつわる長大な叙事詩を著した詩人の名を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．ウェルギリウス　ｂ．オウィディウス　ｃ．ホラティウス　ｄ．リウィウス

7．ローマ人は「偽りの名のもとに破壊，殺戮，強奪を行うことを支配と呼ぶ。また街を破壊しひと気を絶やすことを平和と呼ぶ」と，その史書で述べた１世紀末から２世紀初頭に活躍した歴史家・元老院議員の名を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．カエサル　ｂ．タキトゥス　ｃ．プリニウス　ｄ．プルタルコス

8．もともとはエジプト起源で，ローマ帝政時代に，その神格がしばしばデメテルやアフロディーテ，あるいはアテナなどと同一視された密儀宗教を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．イシス教　ｂ．ゾロアスター教　ｃ．マニ教　ｄ．ミトラ教

9．郊外のキリスト教徒の墓は信者の集いの場となり，やがてそこに教会の聖堂が築かれていった。その例として，ローマのペテロの墓の上に築かれた聖ピエトロ聖堂が挙げられる。なぜ墓が信仰の焦点になっていったのか。「聖人」という語を用い，ローマ帝国と初期キリスト教の関係に触れつつ，１行で説明せよ。

10．第１次と第２次のユダヤ戦争を経て，ユダヤ人がパレスティナの地から追放され世界各地に散らばったことを何と呼ぶか。その名をしるせ。

11.「福音書」や「使徒行伝」などからなる『新約聖書』は，まとめられた当時，何語で書かれたか。次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．ギリシア語　　ｂ．コプト語　　ｃ．ヘブライ語　　ｄ．ラテン語

12. 壁画が宗教教育の役割を果たしたと考えられる事例は仏教でも見られる。４世紀末以降の仏教壁画が洞窟に描かれていることで知られるオアシス都市の名を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．アジャンター　　ｂ．エローラ　　ｃ．敦煌　　ｄ．竜門

13. ローマでは戦争を始めるにあたって鳥占官が吉凶を占い，ヤヌス神殿の門扉が開けられるのを常とした。３世紀以降７世紀にいたるまで，ローマ帝国を東方から脅かした国を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．アケメネス朝　　ｂ．ササン朝　　ｃ．セレウコス朝　　ｄ．パルティア

14. 西ヨーロッパ世界に修道院が広まるきっかけとなったのは，ベネディクトゥスが修道院をモンテ＝カシノに作ったことにある。11世紀，ベネディクト会の修道士から出発し，のちに実在論を唱え，やがてイギリスのカンタベリ大司教となった「スコラ学の父」の名をしるせ。

15. 官僚制度が未発達な前近代においては，国家は流通や所得に対して課税するより，生産手段や生産者に対して課税して確実な税収を確保しようとした。アラブ帝国が当初非ムスリムに対して課した地租を何と呼ぶか。その名をしるせ。

16. ローマが帝国として地中海に進出していくためには，イタリア半島をまず支配下に収めることが必要であった。前272年，その占領をもってローマがイタリア半島での覇権を揺るがぬものとした都市の名をしるせ。

17. この王国は，楔形文字を用いた粘土板を数多く残している。その後，この文字に取って代わってオリエント世界の共通語をあらわすために発達し，やがてはアラビア文字など中東系の文字の祖型になった文字の名をしるせ。

18. キリスト教に深く帰依し，これを最初に国教としたローマ皇帝の名をしるせ。

19. 451年のカルケドン公会議で異端とされたが，その後もエジプトやシリアにおいて根強く生き残った説の名をしるせ。

20. ここに位置し，秦の孝公が都と定めた都市の名をしるせ。

21. 治水事業に功績があり夏王朝を創始したとされる禹に，帝王の座を禅譲したと伝えられる伝説の帝王の名をしるせ。

22. 殷時代に占いのために用いられ，漢字のもととなった文字の名をしるせ。

23. 後漢の時代，馬融の弟子で，正しい五経理解のための訓詁学を大成した学者の名をしるせ。

Ⅱ．次の文を読み，下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

インド洋の西部海域では，北半球でいう夏季に強い季節風が南西から北東に吹き，冬季には逆に北東から南西に向けて吹く。この季節風を利用して，アフリカの東部沿岸地域とアラビアなどとの間では，紀元前から交易がなされてきた。イスラーム教が広まると，この海上交易路は，最大の聖地（　イ　）へ巡礼者を運ぶためにも用いられ，人や文化の交流が活発化した。さらに航海術が発達するとインドなどへ直接航行するルートがひらけ，東アフリカを中国やヨーロッパ[1)]とも結びつけることになった。東アフリカからは金，竜涎香（りゅうぜんこう），＜　あ　＞，材木，スパイス，奴隷などが輸出され，武器，ガラス製品，葡萄酒，麦などが東アフリカに輸入された。

8世紀半ばにアッバース朝が成立し首都バグダードが造営されると，ペルシア湾岸ルートが海洋交易の中心になった。ペルシア湾の出口に位置し海峡の名称ともなった（　ロ　）島やオマーンなどからやってきた商人が，東アフリカの港町に数多く見られるようになった。そのひとつであるキルワには王国が築かれたが，大昔にペルシアのシーラーズ[2)]の王侯がこの地に移住して都市の礎を築いたという伝説を有している。10世紀後半以降，カイロに首都を築いた（　ハ　）朝が，さらにのちにはマムルーク朝[3)]などが伸長し，海洋交易ルートもペルシア湾から紅海へと重心が移った。紅海の出入り口に位置したイエメン[4)]の商人たちが活躍しはじめ，キルワでも13世紀には，イエメン系支配者の下で新王朝が成立したといわれている。このころから15世紀末にかけて，東アフリカではキルワの北にモガディシュ，パテ，ラム，マリンディ，モンバサなどの海港都市が成長し，それぞれ交易活動で栄えた。これらの地域では，アラビア語の影響を受けた（　ニ　）語が共通語として用いられるようになった。キルワよりさらに南には海港都市＜　い　＞が栄え，ザンベジ川の南では，（　ホ　）王国が15世紀～17世紀に繁栄した。

明の第3代（　ヘ　）帝は，朝貢貿易の再開などを目的に1405年，鄭和に艦隊を授け東南アジア[5)]やインド洋に派遣した。以後，鄭和に率いられた中国艦隊は1433年までに都合7回，インド洋に来航した。なかでも1413年に出港した第4回，1417年の第5回，1421年の第6回航海では，分遣隊が東アフリカへもやってきた。中国側の史料から，モガディシュとマリンディに寄港したことは確実である。

航海者（　ト　）に率いられたポルトガル艦隊は1498年4月4日にキルワを通過し，モンバサに立ち寄ったのち4月13日にはマリンディに到着した。そこで水や食料に加え水先案内人を得た艦隊は，吹き始めた南西の季節風に乗って4月24日，インドに向けて出帆し，5月20日カリカットに到着した。こうして開かれたインド洋航路にポルトガルは続々

と艦隊を派遣し，1508年にマスカット[6)]を征服，1510年にはインドのゴアを攻略し，翌年にはマラッカを占領して，またたく間にインド洋の覇者となった。ポルトガルはアフリカ東海岸の都市国家間の足並みの乱れをうまく利用し，一部の海港都市を味方として取り込みつつ影響力を拡大した。1592年にはモンバサを占領して翌年から大要塞の建設に着手し，以後約100年にわたりこの地がポルトガルの東アフリカ支配の拠点であり続けた。

17世紀の終りには，ポルトガル[7)]の東アフリカ支配も落日を迎えた。かわって勢力を伸ばしてきたのが，アラビア半島の東部に位置したオマーンである。オマーンのヤアーリバ朝は1650年にポルトガルを破ってマスカットを奪回し，以後通商活動に乗り出してインド洋各地に進出した。ポルトガルの拠点であったモンバサを1698年に陥落させ，翌年にはザンジバル島も勢力下に収めた。東アフリカにおけるポルトガルの支配地域は（　チ　）を残すのみとなった。ポルトガルはここを1975年[8)]まで植民地として領有し続けた。1720年頃からオマーンでは内戦が始まり[9)]，この間にモンバサは自立したが，新たに始まったブー＝サイード朝の下で，18世紀後半のオマーンはザンジバルを拠点に交易で栄えた。当時エジプトで政治的混乱が続いたため紅海ルートの機能が一時的に衰え，ペルシア湾の出入り口近くに位置したオマーンはアラビア半島近海での通商の多くを掌握して，中継貿易などで繁栄したのである。

19世紀に入るとエジプト[10)]の政情は安定し，紅海ルートも復活してくる。しかもこの時期のペルシア湾ではイギリスの活動が強まりつつあった。イギリス東インド会社[11)]は，1800年の協定によってマスカットに駐在代表の事務所を開設し，オマーンと協力してペルシア湾航行の安全確保にあたるようになった。ブー＝サイード朝の君主サイイド＝サイードは，新たな富の源泉を東アフリカに求めた。1837年にはモンバサを奪回し，王宮を築いたザンジバルを拠点にアフリカ東岸北部一帯を支配下に置いた。その影響は内陸の交易ルートを通って，のちに＜　う　＞も探検したヴィクトリア湖にまで及んでいった。イスラーム教は利子をとることを禁じていたので，ブー＝サイード朝の広域支配を財政・金融面で支えたのは，ヒンドゥー教徒のインド人[12)]であった。1856年に死去したサイイド＝サイードは，２人の息子のうち兄にオマーンを，弟にザンジバルを遺したが，19世紀後半になると東アフリカでもイギリスの影響力が強まり，ザンジバルも1890年[13)]イギリスの保護領となった。経済面ではインド人がさらに力を持つようになり，インドからの移民も増加してその影響は東アフリカ全域に及んだ。

A．文中の空所(イ)～(チ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B．文中の空所〈あ〉～〈う〉にあてはまる適当な語句を，それぞれ対応する次のａ～ｄから１つずつ選び，その記号をマークせよ。

〈あ〉 ａ．紅茶　ｂ．琥珀（こはく）　ｃ．象牙　ｄ．貂（てん）皮

〈い〉 ａ．アガディール　ｂ．アデン　ｃ．ソファラ　ｄ．マラケシュ

〈う〉 ａ．アムンゼン　ｂ．スコット　ｃ．スタンリー　ｄ．ヘディン

C．文中の下線部１)～13)にそれぞれ対応する次の問１～13に答えよ。

１．イタリア中部トスカーナ地方で，東方交易により繁栄し，12世紀に最盛期を迎えたが，1284年ジェノヴァに敗れ弱体化した都市の名を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．ヴェネツィア　ｂ．サレルノ　ｃ．ナポリ　ｄ．ピサ

２．アケメネス朝の故地で，有名なペルセポリス遺跡の南西に位置するこの都市は，10世紀初めカスピ海の西南に興ったブワイフ朝が領有し都とした場所である。このブワイフ朝が，イラク地方の実権を握った後に実施した，軍人に土地の徴税権を与える制度の名をしるせ。

３．この王朝の第５代スルタンで，シリアに侵入したモンゴル軍を撃退し，アラビア半島の聖地を保護下においた人物の名を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．アルプ＝アルスラーン　ｂ．サラディン

ｃ．ニザーム＝アルムルク　ｄ．バイバルス

４．この地には紀元前後まで，サバ（シェバ）王国という通商国家が香料貿易で栄え，豊かな国として近隣に知られていた。『旧約聖書』によると，この国の女王は，ヘブライ人の王国の第３代国王が知恵のあふれる人物であることを伝え聞き，イェルサレムに彼を訪ねたという。このヘブライ人の王の死後，指導者を失った王国は南北に分裂したが，その国王の名をしるせ。

５．この地域では，鄭和の遠征を契機に，明と朝貢関係を結んだマラッカ王国がタイのアユタヤ朝への従属から脱して急速な発展を遂げ，中継貿易の一大中心地となった。その後，明の対外活動が縮小すると，マラッカ王国は後ろ盾を失うことになったが，再びタイに従属する事態を避けることができた。その理由を１行でしるせ。

6．この地はその後，1552年にオスマン朝によって一時的に占領された。このときのオスマン朝スルタンの名をしるせ。

7．1580年に王家が断絶したポルトガルは，スペインと同君連合を組んだ。三十年戦争によるスペインの弱体化に伴い1640年に再び独自の王を戴くが，以後イギリスへの従属化の道を歩む。1662年ポルトガル王女がイギリス王に嫁ぐ前年，持参金代わりにインドの重要な港湾都市がポルトガルからイギリスに献じられた。この都市の名を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．カルカッタ　　ｂ．スーラト　　ｃ．ボンベイ　　ｄ．マドラス

8．この当時，ポルトガルは，第二次世界大戦前から30年間以上にわたって続いた独裁体制が崩壊した後の混乱期にあった。この独裁体制を主導した人物の名を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．サラザール　　ｂ．バティスタ　　ｃ．フランコ　　ｄ．ペロン

9．この内戦のころからアラビア半島全体が激動期に入った。サウード家と結びついて後に半島全体に勢力をふるったイスラームの信仰復興運動は，その指導者の名から何と呼ばれるか。その名をしるせ。

10．1805年に在地勢力に推されてエジプト総督となり，1848年までその地位を保ってエジプトのオスマン帝国からの自立を主導した政治指導者の名をしるせ。

11．19世紀のイギリスでは，東インド会社の東洋貿易独占に対する批判が盛んになったが，それは自由貿易運動の一環であった。この運動を推進し，穀物法廃止に貢献した人物の名を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．ウォルポール　　ｂ．コブデン

ｃ．ジョゼフ＝チェンバレン　　ｄ．ディズレーリ

12．18世紀末以降，インドでは中西部を中心に，ヒンドゥー教を奉じる土侯勢力が連合を結んでイギリスの支配に軍事的な抵抗を試みたが，1818年に敗北した。この戦争の名をしるせ。

13．この年に，「ドイツ領東アフリカ」がドイツ政府の直接統治となった。「ドイツ領東アフリカ」は，現在のどの国にほぼ相当するか。その国名を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．ウガンダ　　ｂ．エチオピア　　ｃ．ソマリア　　ｄ．タンザニア